

第46回 START プログラム (タイ)

2017年9月5日(火)から9月21日(木)までの約2週間、第46回 START プログラムに学部1年生24人が参加し、引率の桑山尚司講師(教育学研究科)ら2人の引率教職員とともに、タイ王国バンコクにあるチュラーロンコーン大学に留学しました。大学での講義を受講のほかにも、現地の日本企業やタイの企業、国連機関等を訪問しました。

チュラーロンコーン大学では、タイ語の授業のほか、タイの経済、政治、歴史、文化や、英語でプレゼンテーションをする際に必要となるテクニック等に関する講義を英語で受講しました。初めて英語で授業を受ける学生たちにとっては、すべてを理解することは難しかったようですが、授業での疑問点を積極的に英語で質問していました。また、今までタイ語に触れたことはほとんどありませんでしたが、最初に基本的なタイ語を学び、現地の方々と交流を重ねることで、「コミュニケーション能力」とは何かを学び、その大切さを実感していました。ほかにもチュラーロンコーン大学の学生とキャンパスやバンコク市内を見学したり、互いの国の文化を紹介しあったりして交流を深めていました。文化研修では、バンコク近郊の寺院や世界遺産であるアユタヤ歴史公園を訪問するなど、歴史的建造物見学を通して、タイの歴史や文化の多様性を学びました。

また、「グローバルキャリアを考える」という視点から、現地日本企業や教育機関そしてタイ企業や国際機関を訪問し、学生たちは、海外で働くことの楽しさや課題、グローバル人材についての講義を受けました。また、海外で実際に働かれている企業人の皆さんや国際協力に携わる皆さんと直接お話しできたことで様々な学びを得ました。すでに目標を持っている学生もまだ目標が漠然としている学生も自身の将来についてあらためて深く考える貴重な機会となりました。

現地研修の集大成として、渡航前の事前学習に加え、現地で各グループが関心を持ったテーマ(タイにおける政治、経済、社会、教育、文化)について行った学習や現地大学生へのインタビュー調査をもとにまとめた成果を英語で発表しました。

帰国後の事後研修では、本プログラムを通して学んだこと、及びこの経験を今後大学生活や将来にどのように生かしていきたいかを発表することで、これからの目標を再確認し、そこに向かってどのように努力すべきかを具体的に考えることができました。



チュラーロンコーン大学の学生との交流



ワット・ポー訪問



企業訪問時のワークショップ



学習成果発表会の様子